寄稿
個別寄稿

日下部（くさかべ）　達（たつし）
東北電力株式会社
執行役員福島支店長

東北電力のルーツともいえる魅力あふれる奥会津地域
～ 奥会津水力館「みお里」で観光振興に貢献 ～

東北電力奥会津水力館　みお里　MIORI®

◆はじめに

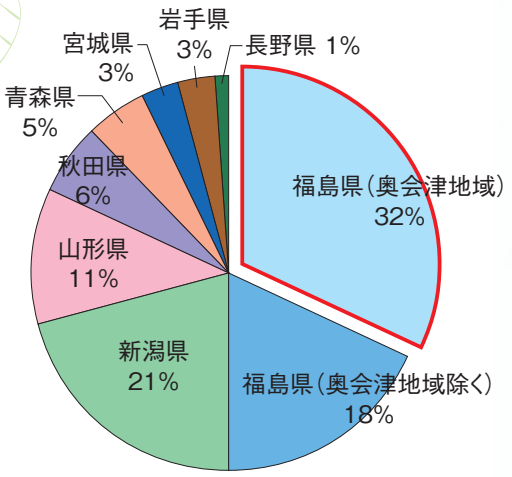
2020年７月９日、東北電力初の本格的な水力発電 PR 施設「東北電力奥会津水力館　みお里 MIORI®」（以下、水力館）が、福島県大沼郡金山町の道の駅「奥会津かねやま」に隣接してオープンいたしました。

水力館が立地する福島県金山町をはじめ周辺の７町村※は「奥会津地域」と呼ばれ、山々に沿って流れる只見川を中心に、豊かな自然と美しい景観が広がる地域として知られ、一年をとおして多くの方が美しい風景を求めて訪れる地域です。

東北電力は、草創期より、この地域で大規模な水力電源の開発を進め、戦後の復興を電力供給の面から支えてきました。奥会津地域は、現在も当社の水力発電における総出力の約３割を占める重要な電源立地地域となっております。（次ページ円グラフ）

水力館は、こうした歴史的経緯や、水力発電をはじめとする再生可能エネルギー活用に向けた取り組みなどを発信する PR 施設として誕生いたしました。

施設の愛称である「みお里」は、奥会津地域の中高生から募集し決定したものであり、「みお」



東北電力の水力発電における出力の県別割合

は「水脈」を表し、「豊かな暮らしを支える水脈のふる里」との意味が込められており、地域の方々には愛称で親しまれております。

※ 柳津町、三島町、金山町、昭和村、只見町、南会津町、檜枝岐村

◆水力発電や奥会津地域の魅力を多彩な展示で PR

水力館館内では、映像やジオラマ、アートなどの多彩な展示により、水力発電の仕組みや只見川における電源開発の歴史、奥会津地域の多くの魅力を年齢問わず、大人から小さなお子さままで五感で感じながら学ぶことができます。

この場をお借りして施設内を少しご紹介させていただければと思います。

皆さまは、只見川の電源開発に尽力した東北電力初代会長である白洲次郎をご存知でしょうか。ここ水力館では、白洲次郎の足跡や生涯を年代毎にまとめたパネル、遺品、書籍なども展示し、白洲次郎の人間性などにも触れることができるコーナーがございます。

只見川と白洲次郎

また、奥会津地域の多種多様な自然の営みや只見川と当社上田発電所の姿を描いた、横７メートル、縦２メートルほどの大きなステンドグラスは来館された方々を魅了しています。自然光によって醸し出されるさまざまな情景は、ぜひ一度は体験していただきたいものです。

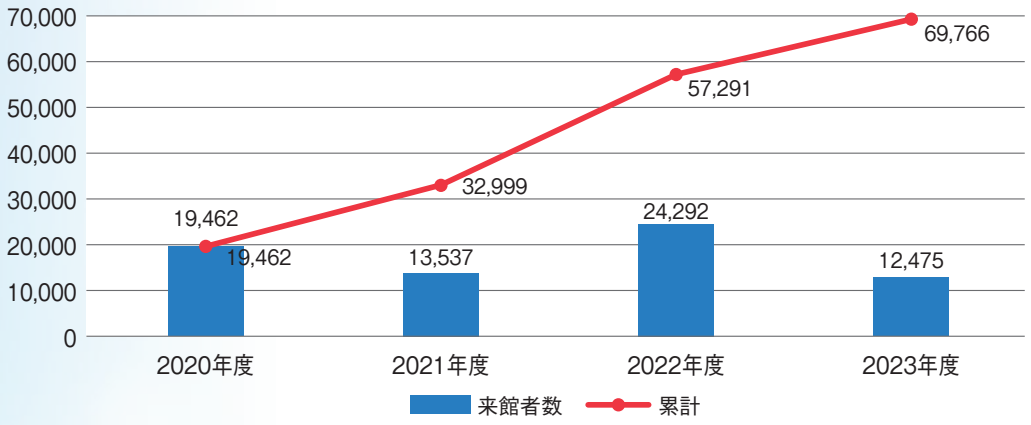
MINAMO ラウンジ

さらに、来館された方が自由にお使いいただくことのできる癒しのスペース（MINAMO ラウンジ）もご用意しております。水面をイメージしたオリジナルの椅子やテーブルを設置しており、窓際からは雄大な只見川と豊かな自然を一望できるほか、昨年10月１日

巨大ステンドグラス「奥会津讃歌」

に全線再開通となった只見線の列車を臨むことができます。幻想的な夏の川霧や秋の紅葉など、四季折々の風景を楽しみながら、ゆっくりとお過ごしいただけます。

これらの多彩な展示等が評判を呼び、福島県をはじめ、県外各地からも多くの皆さまが足を運び、今年９月５日には来館者数が累計７万人に到達いたしました。



奥会津水力館「みお里」年度別来館者数および累計来館者数

※2020年度は、７月９日オープン日から年度末までの累計来館者数
※2023年度は、８月末時点の累計来館者数

◆歴史を紐解く　～只見川・阿賀野川水系電源開発の足跡から当社のルーツが～

水力館が立地する奥会津地域は、当社創業時の初代会長である白洲次郎が先頭に立ち電源開発に取り組んだ地域です。当社は「日本の再建は東北から、東北の開発は電力から」を合言葉として、戦後の復興を電力供給から支えるため、特に奥会津地域を中心とした只見川・阿賀野川水系の開発に社運をかけて臨みました。その開発の歴史を少し解説いたします。

福島、栃木県境の荒海山に源を発する阿賀川は、会津盆地西北部で尾瀬沼に源を発する本流域最大の支川・只見川と合流、新潟県に入って阿賀野川と名を変え、新潟市で日本海に注ぐ日本屈指の大河川です。豪雪地帯である当地域は、春先の豊富な雪解け水が特徴で、発電に利用できる水資源は国内最大級といわれております。

こうした自然条件から、只見川・阿賀野川における電源開発は、古くは明治の末期から注目されていましたが、険しい山岳地帯であることや厳しい気象条件、あまりにも大規模な開発規模といった理由から、昭和初期まで開発は見送られてきました。

戦後、電力需要が急増し、電力の供給力が不足するなか発足した当社は、「東北地域のみなら

宮下発電所

本名発電所

ず、我が国の経済自立にとって必要不可欠なエネルギー供給源」と位置づけ、当地域の電源開発を最重要課題として、総力を結集して昼夜兼行の工事に当たりました。

まさしくこの奥会津地域は、東北電力のルーツともいえる魅力あふれる地域となっております。

◆おわりに

この地域は、「歳時記の郷・奥会津」とも呼ばれ、７町村それぞれの地域に伝統工芸や有名な土産物があり、原風景が残る豊かな自然の中で、その地域固有の文化が育まれ、現在まで守り続けられております。

ぜひ、奥会津地域に足を運んでいただき、雄大な只見川と四季折々の美しい景色を眺めながら、この魅力あふれる自然と文化を堪能していただければと思います。

そして、当社の水力館についても、地域の皆さまから親しまれ、観光振興など地域活性化にも貢献できる施設になれば嬉しく思いますので、皆さまのご来館を心よりお待ち申し上げます。

上田発電所からの眺望

《「東北電力奥会津水力館　みお里　MIORI®」の施設概要》

■開館時間／10時～16時30分（入館は16時まで）
■休 館 日／毎週月曜日（月曜日が祝日または振替休日の場合は翌火曜日）
　　および年末年始（12／29～１／３）
■所 在 地／福島県大沼郡金山町大字中川字上居平933番地
■お問い合わせ先／電話：0241－42－7771　FAX：0241－42－7772
■入 館 料／無料
※施設の詳細は当社ホームページに掲載
（https://www.tohoku-epco.co.jp/pr/fukushima/suiryokukan.html）